

## 事前評価報告書

令和3年9月6日（月）

研究種別	一般研究	
研究課題名	アユの小型早期放流の実証試験	
研究期間	令和4年度 ～ 令和5年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	4.0
2	研究内容の新規性	3.7
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.0
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.3
	<b>総合評点</b>	<b>3.8</b>
[評価所見] 山梨県の内水面漁業を支えるアユの遊漁収入を増やすための効果的な放流方法を検討するための試験研究であり、漁協のみならず遊漁者の増加を通じた関連産業の活性化にもつながる有用性の高い研究である。  アユ種苗生産において大きな課題であった冷水病対策を克服した上で、あえて小型魚を放流することで放流事業の費用対効果の上昇を狙う斬新な視点に基づく研究である。  先行研究の実績により小型早期放流で一定の成果が得られることが予測されており、本研究計画においても目標を達成することができると期待できる。  アユ漁業の衰退には食害や種苗性、放流技術の向上だけでなく、河川環境や遊漁者の世代交代、嗜好の変化など、様々な要因が関わっていると思われる。漁協や釣り産業、遊漁者、観光関連業界、河川管理者等との意見交換や連携をはかりながら、より大きな視点と枠組みで河川の内水面漁業を活発化させる方策についても検討をしていただきたい。		